

ひとりひとりの、施設探しストーリー。

LIFE ON

ライフオン / 医療・介護と住まいをつなぐ

VOL.

5

その人らしい
暮らしへ、つなぐ。



今月の視点 P.04-05

入居後の医療を、どうつなぐ？
介護報酬改定に向けた議論から

介護と住まい 入居サポートセンター

CASE STORIES P.06-11

背景を知り、選択肢を広げる。
3つの入居支援ストーリー

介護が悩みじゃなくなる よのなかへ。



老人ホーム紹介業とは

ご本人・ご家族・ケアマネジャー様に代わって、ご希望や状況に合う施設をご提案します。状態や想い、家族の事情、費用面を整理し、見学から入居まで伴走します。

まずは、相談するところから。

医療機関、ケアマネジャー、地域包括支援センターと連携し、ご本人に合った住まいを一緒に考えます。「誰に相談すればよいか」という段階からお声がけください。

ご相談・ご紹介・見学同行は無料です

紹介先施設からの紹介料で運営しています。施設の利用料・外部サービス等の費用は別途ご確認ください。

当センターが選ばれる6つの特長



福祉車両での送迎



介護経験のある相談員



入居後のご報告



不動産の処分



お引っ越しサポート



身元保証人の支援

ご相談から入居までの流れ

STEP 01



お問い合わせ

STEP 02



ご面談
ヒアリング

STEP 03



施設見学
同行・送迎

STEP 04



連絡調整
入居手続き

STEP 05



ご入居
入居後フォロー

介護と暮らしを支えるサービス



有料老人ホーム

住宅型有料老人ホーム「介護と住まい生活支援センター 塩釜」を運営。



訪問看護事業

「ひばり訪問看護ステーション」を運営。看護・医療サービスを提供。



訪問介護事業

「シエンスホームケア事務所しおがま」を通じ、ご自宅での生活を支援。



コンサルティング事業

有料老人ホーム等の設立支援・運営支援コンサルティングを提供。



居宅介護支援事業

ケアマネジャーが相談に応じ、ケアプラン作成などの支援を行います。



介護施設紹介サービス

ご相談・施設のご紹介・見学同行など、入居までをお手伝いします。

相談の現場から／よくある質問

03 今月の特集

04-05

事例紹介 1・2・3

06-11 セミナー・相談窓口

12

SCENES

住まいが見えると、 これからが見えてくる。

ご本人とご家族の不安に、一つずつ向き合う。見学や相談の場面を、写真とともにご紹介します。



見学に同行します

住まいの様子をご家族と一緒に確かめ、気になる点はその場で施設に確認します。



費用と支援を整理します

「何から決めればよいか」という段階から、資料をもとに一緒に考えます。



入居後の暮らしまで確認します

居室の設備や、緊急時の呼び出し方法まで確認。見学から入居まで伴走します。

今月の相談室

よくあるご質問

Q1

車椅子を利用しての施設見学は可能ですか？

はい、可能です。介護車両を用意していますので、移動や介助の状況をお聞きし、見学日程を調整します。

Q2

入居までに、どのくらいの期間がかかりますか？

一般には1〜2ヶ月ほどですが、受入条件や手続きによって異なります。お急ぎの場合はご希望の時期をお知らせください。

Q3

認知症や持病があっても、施設に入れますか？

病気やお身体の状況によって受入れ可能な施設が異なります。状況を詳しく伺い、対応できる施設をご提案します。

Q4

予算が限られている場合でも、相談できますか？

はい。ご予算に応じた施設をご提案します。毎月の費用など、気になっていることをお聞かせください。



地域でつなぐ、入居相談員。



仙台北店
矢口 智一



仙台北店
白畑 大吾



米沢店
本間 大空



米沢店
石栗 碧



仙台北小田原店
佐藤 恵美



青森店
菊地 敏文



仙台北店
大沼 裕城



山形店
吉野 茜



名取店
星 和貴

2026.09.03 公表資料から

CARE TOPICS

入居後の医療を、 どうつなぐ？

LIFE
ONPEOPLE
CARE
COMMUNITY

令和9年度介護報酬改定に向けた議論から、
住まい選びと医療・介護連携を考えます。

9月3日の介護給付費分科会では、認知症、医療・介護連携、LIFE、口腔・栄養、多床室の室料負担が議題となりました。今月は、その中から「医療・介護連携、人生の最終段階の医療・介護」に注目します。入居先を選ぶとき、「入居した後の医療を誰が・どう支えるのか」は、ご本人・ご家族にも、送り出す専門職の皆さまにも共通する関心事です。

01 施設と医療機関の連携が、論点に

令和6年度の介護報酬改定で、高齢者施設等には**一定の要件を満たす「協力医療機関」を定めること**が、施設の種別に応じて義務（3年間の経過措置あり）または努力義務とされました。公表資料では、その確保状況や制度の意義を踏まえた「今後の在り方」、そして実効性のある連携体制をどう進めるかが論点として示されています。

協力医療機関に求められる体制（令和6年度介護報酬改定）

1

常時の相談対応

急変時などに、医師または看護職員が相談に応じる体制

2

常時の診療

診療の求めがあった場合に、診療を行う体制

3

入院の受入れ

入院を要する入所者を原則として受け入れる体制（病院に限る）

義務 ①②③のすべて

特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、介護医療院、養護老人ホーム

努力義務 ①②

特定施設入居者生活介護（介護付有料老人ホーム等）、認知症対応型共同生活介護（グループホーム）、軽費老人ホーム

経過措置は令和9年3月31日まで

あわせて、1年に1回以上、急変時等の対応を協力医療機関と確認し、その名称等を指定権者の自治体へ提出することとされています。

急変したとき、医療はこうつながる（基準に沿った流れのイメージ／編集部作成）

STEP 1

異変に気づく

施設の職員が状態の変化を把握

STEP 2

相談する

協力医療機関の医師・看護職員へ（要件①）

STEP 3

診療を受ける

求めに応じて診療（要件②）

STEP 4

必要なら入院

原則として受け入れる体制（要件③）

STEP 5

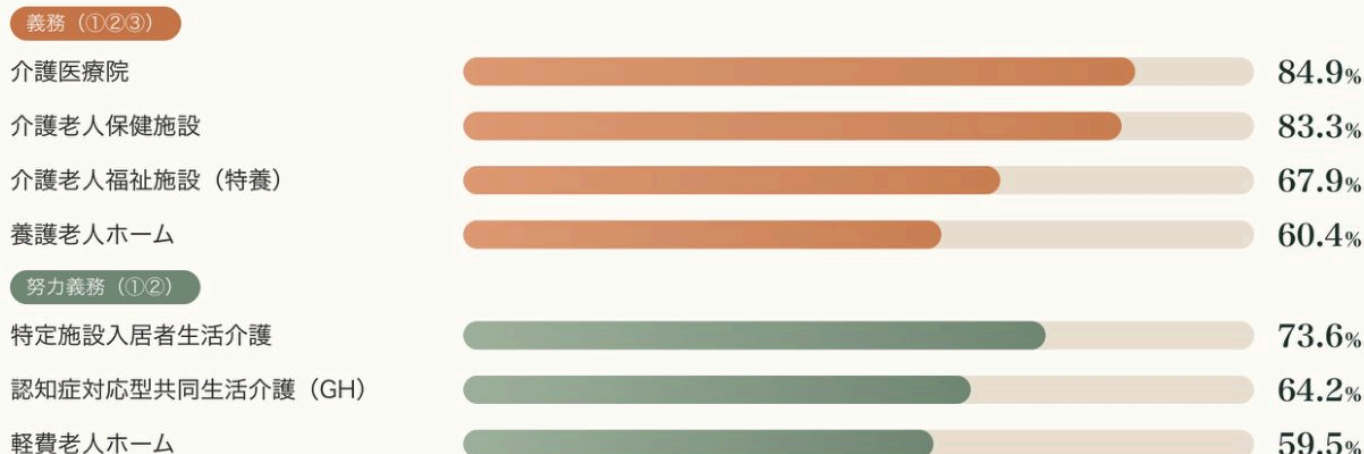
住まいへ戻る

軽快後は速やかな再入所・再入居に努める

※要件③は、義務の対象施設の協力医療機関に求められる体制です。実際の対応は施設・医療機関ごとに異なります。

要件を満たす協力医療機関を定めている割合

義務の施設は①②③すべて、努力義務の施設は①②を満たす協力医療機関を定めている割合



令和6年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査 (令和7年度調査) 施設調査。調査期間：令和7年9月～11月。

02 「協力医療機関」の中身を確認

要件を満たす協力医療機関を定めた効果として、施設系・居住系ともに「**利用者の健康管理が的確・迅速に行えるようになった**」「**協力医療機関に気軽に相談できるようになった**」等が挙げられています。介護老人福祉施設等では、定めている施設のほうが、急変等で入院する際に**入院先と事前調整を行っている割合が高い結果**でした。一方、協力医療機関となることを断った医療機関の理由には、「常時診療」「常時相談対応」の体制確保が困難、等が挙がっています。

03 感染症・看取り・ACPも議題に

感染症への対応では、医療機関との連携等を評価する加算が令和6年度に新設されましたが、算定は広がっていません。看取りでは、死亡数が2040年まで増加傾向にあり、死亡場所は病院のほか**自宅、老人ホーム等が増加傾向**です。疼痛管理やターミナルケアに対応可能な施設の割合は、サービスによって大きく異なります。**話し合いを繰り返し行うACP**の、各サービスにおける位置づけも論点です。

約170万人

年間死亡数のピーク時の見込み
(2040年まで増加傾向)

7割以上

高齢者施設等感染対策向上加算を
算定していない割合
(老健・介護医療院を除くサービス)

04 次の改定に向けた「議論」と、現行制度を分けて読む

- 今回の会議は令和9年度改定に向けた検討です。示された論点は、そのまま新たな決定事項ではありません。
- 協力医療機関に関する令和8年度の改定検証調査は、本年秋頃を目処に速報値が示される予定とされています。
- ここで紹介した見直しは、介護保険の指定基準に関するものです。特定施設の指定を受けていない住宅型有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅では、医療とのつながり方が住まいごとに異なるため、個別の確認が大切です。(編集部補足)

相談現場へのヒント / 編集部の提案

施設見学・紹介時に、確かめたい6点

- 1 継続して必要な医療対応と、施設内で対応できる範囲
- 2 協力医療機関の名称と、相談・診療・入院受入れの内容
- 3 夜間・急変時の連絡先と、受診・入院の調整方法
- 4 入院後、状態が落ち着いたときの再入居の考え方
- 5 感染症が発生したときの、医療機関との連携
- 6 ご本人の意向を、家族や関係職種と共有する方法

出典：厚生労働省「第264回社会保障審議会介護給付費分科会」(2026年9月3日) 資料2「医療・介護連携、人生の最終段階の医療・介護」
情報確認日：2026年9月20日

※「相談現場へのヒント」および(編集部補足)は編集部の提案・補足であり、公表資料の内容ではありません。

LIFE ON 事例紹介 | Case 1

基本属性

特養を待つ住まいから、暮らしを託せる住まいへ。
看護・費用・面会の希望をつないだ入居支援の記録

#パーキンソン病

#要介護4

#特養待機

#費用調整

困難度

医療依存度

★★★★☆

経済的課題

★★★★☆

退院調整緊急度

★★★★☆

基本データ

主疾患・介護度	パーキンソン病（ヤールⅣ度）、要介護4
依頼元	医療機関の相談員様
紹介先施設	住宅型有料老人ホーム
入居までの期間	約1ヶ月



担当相談員

米沢店 本間 大空

ご相談の背景：アセスメント詳細

70代男性。パーキンソン病による入院を機に、退院後の住まい探しが始まりました。車椅子を使用し、杖での移動を目指してリハビリに取り組む一方、ご家族が申し込んでいた特養約6か所には待機期間がありました。希望費用は月額12～13万円程度。費用だけでなく、服薬管理を支える看護体制と、家族が面会に通いやすい環境も必要でした。病院相談員様からの相談を受け、特養を待つ間の住まいという当初の考えから、継続して暮らせる場所も視野に入れ、条件を一つずつ整理しました。

提案施設と選定理由

1 このご相談で外せなかった条件

① 服薬管理と移動を支える看護体制

車椅子での生活と必要な支援を確認し、24時間の看護体制を選定の軸に。

② 続けられる費用への調整

特養に近い費用を希望する家族と、施設側の条件をすり合わせる。

③ 家族とのつながりを保つ面会条件

遅い時間帯にも面会できることを、暮らしを支える条件として重視。

2 ご提案した施設と、その理由

検討していた選択肢

申込済みの特別養護老人ホーム（約6か所）

状況 ご家族が申し込み済み。ただし待機期間があり、退院後すぐの受け皿にはならない状況でした。

★ ご提案 → 入居決定

訪問看護ステーション併設のナースিংホーム
（住宅型有料老人ホーム）

提案した理由 服薬管理を含む24時間の看護体制があり、遅い時間帯の面会にも対応できるため。特養を待つ間だけでなく、そのまま暮らし続けられる場所として提案しました。

入居の決め手

ご家族が評価したのは、24時間の看護体制と遅い時間にも面会できる環境でした。費用の相談を重ねる中で、特養を待つためだけの住まいから、そのまま暮らしを続ける場所へ。選択の意味が変わっていったことが、この支援の大きな転機でした。

入居までのストーリー：コーディネート軌跡

STEP 01

退院後の住まいと希望を整理



特養の待機期間があり、退院後に過ごす住まいが必要でした。**希望費用12～13万円、車椅子使用、服薬管理**を確認し、ご家族が求める条件を整理しました。

STEP 02

看護体制と面会条件を比較



特養を待つ選択肢も含め、看護体制と面会条件を比較。**24時間の看護体制と、遅い時間帯にも面会できる環境**が、ご本人と家族の暮らしに合うか検討しました。

STEP 03

家族の希望を踏まえ費用調整



特養に近い費用を希望するご家族と施設の間で条件を相談。必要な看護体制や面会の希望とあわせて検討し、入居後も生活を続けていけるか考えました。

STEP 04

一時的な住まいから生活の場へ



看護・面会・費用の条件を踏まえ、ご家族は特養を待つための住まいから、そのまま暮らしを続ける選択へ。新たな生活の場へ入居しました。

リスク管理と入居後の確認点

！ 予見されたリスク

費用を優先するあまり、服薬管理や面会の条件が合わない住まいを選ぶこと。特養待機と退院時期のずれにも配慮が必要です。

✓ 入居とその後の確認点

継続して暮らせる場所として選んだことが、この支援の転機になりました。入居後の確認点は、服薬管理・移動介助・面会の継続です。

支援で大切にしたこと

💬 専門職との連携の視点

費用だけでは決められない相談を、看護と面会の条件まで含めて整理すること。待機中の住まいにも、暮らしの継続性を持たせます。

💬 本人・ご家族の希望

ご家族が大切にしたのは、必要な看護体制と、遅い時間にも面会できること。その希望を費用とともに検討しました。

担当相談員より：CM様へのメッセージ

特養を待っている方の住まい探しでは、一時的に過ごせることだけでなく、その先の暮らしまで見据えることが大切です。看護、費用、家族との面会。それぞれの条件を別々に考えず、本人の生活としてつなぐことで、選択肢が見えてきます。待機期間の受け皿や費用の折り合いに悩まれる時も、まずはご希望をお聞かせください。



LIFE ON 事例紹介 | Case 2

基本属性

変わり続ける身体状況に、家族と向き合う。
必要な医療と費用の見通しを整理した住まい探しの記録

#真菌性眼内炎

#介護区分変更中

#家族の費用支援

#医療対応

困難度

医療依存度



経済的課題



退院調整緊急度



基本データ

主疾患・介護度	真菌性眼内炎ほか、介護区分変更中
依頼元	医療機関のSW様
紹介先施設	住宅型有料老人ホーム
入居までの期間	約3ヶ月



担当相談員
仙台北店 白畑 大吾

ご相談の背景：アセスメント詳細

80代男性。真菌性眼内炎の治療で入院し、視力や食事量が低下。ほぼベッド上で過ごす中、その後は経口摂取も難しくなり、必要な栄養管理や転院調整の状況が変化していきました。次男様が相談の窓口となり、長男様は費用を支える意向でした。年金は月額13万円。ご家族が重視したのは、近さよりも本人に必要な対応ができたことでした。相談開始時の条件だけでは候補を決められない中、身体状況と家族の支援を並べて確認する住まい探しとなりました。

提案施設と選定理由

1 このご相談で外せなかった条件

① 変化に合わせた医療・介護対応

食事・栄養管理と介助の必要性を、その時点の状態に即して確認。

② 場所より必要なケアを優先

居住地域に限定せず、南方面も含めて検討するご家族の意向を尊重。

③ 家族の役割と費用の見通し

年金と長男様の支援意向、次男様の連絡窓口を整理し、継続条件を検討。

2 ご提案した施設と、その理由

ご提案・見学 A

特別養護老人ホーム

提案した理由 ご家族もご自身で特養を探しており、年金の範囲で続けやすい費用の選択肢として見学しました。

★ ご提案・見学 B → 入居決定

医療的なケアに対応するナースিংホーム (住宅型有料老人ホーム)

提案した理由 変化していく食事・栄養管理に、医療と介護の両面から対応できるため。ご家族の意向に沿って居住地域にこだわらず、南方面まで範囲を広げて探しました。

入居の決め手

ご家族の希望は一貫して、場所より必要な対応を優先することでした。身体状況が変わる中でも、その希望を住まい探しの軸に据え、費用を支える長男様の意向も踏まえて調整。最終的に住宅型有料老人ホームへの入居につながりました。

入居までのストーリー：コーディネート軌跡

STEP 01

身体状況と家族の役割を整理



視力低下と、ほぼベッド上で過ごす状態を確認。次男様が相談の窓口、長男様が費用を支える意向を踏まえ、**年金13万円**の情報と必要な介助を整理しました。

STEP 02

食事・栄養管理の変化に対応



経口摂取が難しくなり、**栄養管理**や転院調整の状況にも変化が生じました。当初の条件のまま候補を決めず、病院と最新の状態を共有し、必要な対応を見直しました。

STEP 03

受入対応と家族負担を比較



近さより必要な対応を優先する希望に沿い、受入先の条件を検討。**食事・栄養管理**と介助の体制に加え、長男様の**費用支援**を含めて継続できる条件を相談しました。

STEP 04

入居時の対応をそろえて移行



家族と施設で、入居時に必要な対応と連絡窓口を共有。身体状況の変化を踏まえた受入準備を進め、入居先での新しい生活へつなぎました。

リスク管理と入居後の確認点

！ 予見されたリスク

身体状況の変化によって、当初想定した食事・栄養管理や介助では対応が合わなくなること。受入条件を固定しない視点が必要です。

✓ 入居とその後の確認点

入居後も確認したいのは、食事・栄養管理と必要な介助の変化です。家族と施設が相談できる窓口も大切になります。

支援で大切にしたこと

💬 専門職との連携の視点

変わる身体状況に合わせて受入条件を見直すこと。病院・施設・家族が同じ条件で検討できるよう、確認点をそろえます。

💬 本人・ご家族の希望

次男様が窓口となり、長男様が費用支援を担う意向。近さより本人に必要な対応を優先する希望を、検討の軸に置きました。

担当相談員より：CM様へのメッセージ

入院中に身体状況が変わると、一度整理した受入条件も見直しが必要になります。こうした時こそ、本人に必要な支援と、ご家族が担える役割を確認し直すことが大切です。私たちは病院・施設・ご家族の間で、住まい選びの条件を整理します。候補が定まらない段階でも、経過を共有しながら一緒に方向を考えていきましょう。



LIFE ON 事例紹介 | Case 3

基本属性

医療と費用の壁を越え、家族が通える住まいへ。
他院との連携で退院期限までにつないだ調整の記録

#イレウス

#要介護1・区分変更中

#医療と予算の不一致

#他院連携

困難度

医療依存度 ★★★★★☆

経済的課題 ★★★★★☆

退院調整緊急度 ★★★★★☆

基本データ

主疾患・介護度	イレウス・パーキンソン病、要介護1（区分変更中）
依頼元	医療機関のSW様
紹介先施設	住宅型有料老人ホーム
入居までの期間	約2ヶ月



担当相談員

仙台本店 矢口 智一

ご相談の背景：アセスメント詳細

80代男性。イレウスで入院し、経口摂取が難しく、CVポートの管理が必要な状態でした。ご家族の希望予算は月額20～25万円、介護保険は3割負担。検討した24時間看護の施設には月額30万円を超えるものもあり、必要な医療と費用の両立が壁となっていました。さらに、公共交通機関で面会に通えることも大切な条件でした。病院のSW様との面談を起点に、他院で受けたパーキンソン病の診断内容を確認し、書類準備と施設探しを並行して進めました。

提案施設と選定理由

1 このご相談で外せなかった条件

① 医療情報をそろえて相談につなぐ

CVポートの管理と、他院でのパーキンソン病の診断内容を確認。

② 申請準備と施設探しを並行

必要書類を準備しながら、入居相談が進められる受入先を検討。

③ 面会を続けられる立地と雰囲気

公共交通での通いやすさを含め、家族が納得できる生活環境を比較。

2 ご提案した施設と、その理由

ご提案・見学 A

ホスピス型（医療特化型）の住宅型有料老人ホーム

提案した理由 CVポートの管理だけでは入居の対象外でしたが、パーキンソン病の診断確認と難病の申請を進めることで、相談できる施設として提案しました。

ご提案・見学 B

ナーシングホーム（住宅型有料老人ホーム）

提案した理由 CVポートなど医療的なケアに対応でき、申請の準備中でも入居相談ができたため。

★ ご提案・見学 C → 入居決定

看護ステーション併設のナーシングホーム（住宅型有料老人ホーム）

提案した理由 医療依存度の高い方に対応する看護体制があり、ご家族が公共交通で面会に通える立地だったため。

入居の決め手

ご家族が施設の雰囲気と立地を気に入られ、難病の医療費助成を受けられる見通しで費用の負担にも上限がつくことが決め手になりました。空室確認を続け、退院期限の3週間前に住まいが決まり、1週間前の入居につながりました。

入居までのストーリー：コーディネート軌跡

STEP 01

医療・予算・面会 条件を整理



病院でSW様同席のもと
面談。**CVポートの管理、
介護保険3割負担と
希望予算20～25万円、
公共交通で面会に通える
立地**を確認し、必要条件を
整理しました。

STEP 02

他院の診断確認と 書類準備



入院先SW様を通じ、
他院で受けた診断内容を
確認。ヤールⅢ以上の
診断確認と
臨床調査個人票を依頼し、
家族へ必要書類を送り、
施設相談と並行して
準備しました。

STEP 03

申請準備と並行し 3施設を比較



申請準備中でも相談できる
3施設を見学。医療面や
費用の見通しに加え、
公共交通での通いやすさと
雰囲気と比較し、ご家族が
納得できる住まいを
検討しました。

STEP 04

空室確認を続け 期限前に入居



連絡がつきにくい時期も
電話やメールを重ね、
空室を継続して確認。
退院期限3週間前に
入居先が決まり、調整を
続けたことで、期限
1週間前の入居に
つながりました。

リスク管理と入居後の確認点

！ 予見されたリスク

医療と費用の調整に時間を要し、希望する空室を
確保できないまま退院期限を迎えること。
書類準備だけに進行を絞らない配慮が必要です。

✓ 入居とその後の確認点

退院期限の1週間前に入居。入居後の確認点は、
医療面の継続対応と家族の面会です。支援の
目標は、入居後も生活が続くことにあります。

支援で大切にしたこと

💬 専門職との連携の視点

診断確認、申請準備、空室確認を並行して進めること。一つの手続きを待つ間にも、住まいの選択肢を
探し続けます。

💬 本人・ご家族の希望

必要な医療に加え、公共交通で面会に通える立地と施設の雰囲気。家族が関わり続けられることも重要な
条件でした。

担当相談員より：CM様へのメッセージ

必要な医療と予算が合わず、退院期限も迫っている。そうした相談では、施設を探
すことと同時に、診断情報や必要書類をそろえる道筋も大切になります。制度の利
用が決まったものとして進めず、確認と施設相談を並行することが支援の要点で
す。ご家族の通いやすさも含め、暮らし全体を考える調整をお手伝いします。



出張セミナー 随時受付中！

老人ホームの「違い」と「選び方」



グループホーム



有料老人ホーム



サービス付き
高齢者向け住宅



介護保険施設

地域にある介護施設は、料金システム・施設サービス・人員配置等さまざまです。どの施設がどんな特徴を持つのか、どんなポイントで探せばよいのか。最適な施設選びの方法や見学のポイントなどを、施設選びのプロが解説します。

開催無料 / 開催実績

認知症カフェ

地域包括支援センター様主催の認知症カフェにて、地域の皆さまに向けてセミナーを開催。

医療機関 勉強会

医療機関様での研修に当センターの相談員が講師として、施設選びのポイントについてセミナーを開催。

ケアマネ勉強会

地域のケアマネ向け事例検討勉強会にて、当センターがセミナーを開催。

地域ケア会議

地域包括支援センター様主催の地域ケア会議にて、老人ホームの選び方とポイントについてセミナーを実施。



東北各地で店舗展開中



FC加盟店 募集中

あなたの地域でも、入居サポートセンターを。開業から運営まで、本部が支援します。

紹介先施設様 募集中

ご入居を検討中の方を、貴施設へおつなぎします。提携・空室のご相談は、お気軽に。

仙台北店

〒980-0021
宮城県仙台市青葉区中央4丁目10-3
JMFビル仙台01-2F

仙台小田原店

〒980-0003
宮城県仙台市青葉区小田原4丁目2-50-2

仙台北店

〒981-0961
宮城県仙台市青葉区桜ヶ丘6-34-18-102

名取店

〒981-1231
宮城県名取市手倉田堰根356

亶理店

〒989-2301
宮城県亶理郡亶理町逢隈中泉上谷地239-1

青森店

〒039-0502
青森県三戸郡南部町大字下名久井字剣吉前川原1-19

山形店

〒990-0038
山形県山形市幸町2-9
ダイワロイネットホテル山形駅前 1/2F 220

米沢店

〒992-0003
山形県米沢市窪田町窪田91番地

まずはお気軽にお電話で、スタッフにご相談ください



0120-347-142

